

第1回 全国ユース環境活動発表大会

国連大学サステナビリティ高等研究所

今回の会場は、東京・青山にある国連大学ウ・タント国際会議場。国連大学はグローバルな研究機関であり、大学院の教育機関。その中のサステナビリティ高等研究所では、研究活動や能力育成を通じて、社会的、経済的、環境的側面から持続可能な未来に貢献しています。



国連大学



ウ・タント国際会議場

主催 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所)

協力 認定NPO法人 JUON NETWORK、NPO法人エコ・リーグ、
全国大学生環境活動コンテスト実行委員会、WWF ジャパン

協賛 キリン株式会社、協栄産業株式会社

環境活動発表大会参加校一覧

北海道旭川農業高等学校

森林環境班

ササの有効利用2015 ～森林バイオマスとしてのササ資源の利用～

造林においてササは障害要因である。ササをバイオマスとしてキノコの菌床および廃菌床から紙を創りだす研究で、紙を創りだす過程までに電気を使用しない。来年度はササ紙を利用した苗木ポットの実用化をめざす。



青森県立名久井農業高等学校

TEAM FLORA PHOTONICS

種差海岸におけるサクラソウ自生地の保全活動

東日本大震災の津波により種差海岸に自生するサクラソウは塩害に見舞われていた。何もデータのない中で2013年より地道な環境調査を続け、現在では人工授粉による実験的な保護活動を行っている。



山形県立村山産業高等学校

農業部バイオ研究班

高校生の挑戦 県民を巻き込んだ保護活動はできるのか？

発芽率の低いオキナグサにバイオテクノロジーを用いて発芽率を高めるとともに、遺伝子の保存を可能にした。オキナグサによる環境学習プログラムを立ち上げ、地域住民を巻き込んだ活動を展開している。



群馬県立伊勢崎興陽高等学校

植物バイオ研究部

廃棄野菜の総合的な活用 ～興陽E3から興陽E4へ～

野菜の非可食部からバイオエタノールを生成したが、抽出にかかる手間とエネルギーが問題に。発酵液をそのまま土壌に撒くことで土壌消毒と堆肥の二重の効果が得られることに注目し、慣行法との比較栽培実験を行っている。



お茶の水女子大学附属高等学校

グローバル総合・環境・服チーム

ファッションと環境問題 ～(服)で地球に幸(福)を～

身近な服について、生産過程での環境負荷やリサイクル率の低さを啓蒙しながら意識改革を促す活動。意識調査や体験活動を行ったり、ディスカッション、Webページ(日本語、英語)を通して実情を訴えている。



静岡県立富岳館高等学校

キノコ研究班

富士で生まれた「究極のエコ資材」～被災地の緑を守る～

キノコが出す植物成長調整物質(AHX)を、津波被害を受けた「堤防の法面緑化」「沿岸水田地域の塩害への対策」に役立てる。AHXは塩や乾燥のストレス対策に効くことが分かり、被災地だけでなく世界中の地域で役に立つ可能性がある。

